

令和5年3月31日

令和4年度 中野区放課後デイサービスセンターみずいろ事業報告

特定非営利活動法人わかみやクラブ
理事長 青柳 通
中野区放課後デイサービスセンターみずいろ
〒165-0021 東京都中野区丸山 1-17-2
管理者 川口 秀樹

今年は春から夏、冬と新型コロナの感染が拡大。2月にはインフルエンザが流行し、施設内でも罹患者が多く利用率が伸び悩んだ。

支援については、以前よりの重点課題であった職員主導の支援から利用者本位の支援へと改善すべく、支援の基本方針の見直しを行い、スーパーバイザーの助言を受け、支援の在り方や基本姿勢ついて随時計画的に改善を進めた。

【令和4年度の課題】

ガイドラインに則り、子どもの意思の尊重、主体性、自己決定等を何よりも大事にし、より子どもの権利に配慮した支援を行う。それらを実現する為の仕組み作りを行う。

【令和4年度の実績】

安全面を優先する事に偏り過ぎていた為、子ども達を管理する傾向にあった支援体制から、安全面の確保は大前提とした上で、環境や支援の方法を調整する事により、職員の都合ではなく、子ども達自身が選択し、意思決定をする事ができる支援体制の確立を目指す。

【令和4年度の成果】

あらゆる場面で子ども達が自分で考え、自分で選択し、行動する力を培い、発揮する事が多く見られるようになり、その事は子ども達のリラックスした穏やかな表情にも現れている。今後も継続して取り組みを行っていく。

1. 支援全般の改善点

子どもの意思の尊重、主体性、自己決定等を何よりも大事にし、より子どもの権利に配慮した支援を行う。それらを実現する為の仕組み作りを行い以下の改善を行った。

(1) 『話し合い活動』の改善

話し合い活動を『始まりの会』『帰りの会』に変更し、子どもの特性に合わせて職員がサポートをしながら、子どもが中心になり、司会進行を行った。その日嬉しかった事などを挙手や指名などで発表してもらう試みを行った。会の進行内容も明確に簡潔にする等の変更を行ない、メリハリがあり、子ども達が活躍し楽しめる会が実現している。

(2) 『送迎支援』の改善

子どもの乗車確認や降車チェック、報告などを毎回徹底して行い、定期的に送迎について意見交換する場を作ることに、より安全・安心な送迎ができるようになった。また添乗する職員が保護者へ報告ができるように、子どもの日々の様子や変化等の情報の共有を日々行った。保護者からの評価も良い。

(3) 『排泄支援』の改善

排泄の際ドアを完全に閉める事で人権やプライバシーへの配慮を徹底した。また必要に応じて排泄データ(回数、間隔等)を記録し、記録開始半年後検証を行い支援計画への反映を行った。子ども達一人ひとりが自分のペースで排泄できるようになり、自立度も上がっている。

(4) 『登所、降所時の支度・準備等の支援』の改善

ホールの整理や物の配置替え等を行い、広いスペースを利用した機能的な空間を作った。

帰りの会へ移行する際には、遊びの片付けから始まり→帰りの準備→帰りの会→送迎車への移動と時間や順番も明確にした事により、子ども達それぞれが自主的に支度・準備に取り組み、自ら進んで行動できるようになった。またこのホールは楽しい気持ちで穏やかに帰宅する前の時間を過ごす場としても、しっかりと機能している。

(5) その他の支援改善点

① 各部屋の活用方法等の改善

以前、「話し合いの部屋」「活動の部屋」「おやつ部屋」という名前と呼ばれていた各部屋を「ルーム A」「ルーム B」「ルーム C」に変更。それにより「はじまりの会」や「活動」「自由時間」等臨機応変に3部屋を活用できるように変更した。

② 自由時間の過ごし方に関する改善

ルーム A、ルーム B、ルーム C(状況により開放)の3部屋の何処で過ごすかを子ども本人が考え選択できるようにした。また、ルーム A では玩具は子ども達が自由に選べるようにして、ホワイトボードに字や絵を自由に描く事も可能とした。

③ 視聴覚機器の活用

タブレット等、ICTを活用したサービスを利用することで活動や自由時間のダンス、音楽、体操等で模倣を促す動画や音楽の再生などに利用できプログラムの種類が広がった。子供たちも楽しみにしている。

また特に新しい試みとして、イベントの企画を子ども達が話し合っ決めてという高学年の活動の中で、インターネットを利用し子ども達自身が考え、選択し、決定する等、有意義に活用できる可能性が広がっている。

④ おやつ改善

以前のように決められたおやつを子ども達が一齐に食べ始め、食べ終わるまで待つという流れを廃止し、自由時間等の最中に職員が支援可能な範囲で子ども達の意志を確認しながら数名ずつおやつを食

べる部屋へ誘導し、自分で好きなおやつを選び、自分のペースで食べ始め、食べ終わったら自分のペースで自由時間に戻る等の流れに変更した。おやつを楽しみにする子どもが増えた。

⑤ 昼食に関する改善

以前はプラダウィリー症候群の利用者がいた関係で、水筒に入れてくる飲み物は水かお茶という制限があったが、本人が飲みたいもの、飲めるものであればなんでも良いというルールに変更した。

「宅配弁当」子ども達全員に共通のお弁当を提供していたが、それを「注文弁当」と名称を改め、希望者のみがお弁当を注文し、それ以外は好きな物を持参する事を可能とし選択できるようにした。

コンビニ体験に関して、1000円以内で子ども達それぞれが昼食として食べきれぬものであれば何を選んでも良いというルールに変更した。

おやつと同様に自分のペースで食べ終わったらごちそうさまの後自由時間という流れにする事で、自由な楽しい昼食が実現している。

⑥ グループ分けの改善。月案、週案、日案の作成

下校時間に合わせ二グループに分けていたが、年度後期から子ども達と職員を完全に高学年グループ、低学年グループの2グループに固定する体制を開始した。

各グループで月案、週案、日案の作成を開始し、その後の実行、評価、改善を行う事により、それぞれの子どもにより合った活動、細やかな支援が可能となるよう試行している。

⑦ 職員間の情報共有の改善。

職員会議(月1回)、事業会議(毎週1回)、グループ会議(月1回から2回)、ケース会議(適宜)、当日の打ち合わせ、ミーティング等、何を話し合う場であるかを明確にする事により、職員間での情報共有が円滑になってきている。また支援ソフトを有効活用する事により、情報共有を行う事で一貫性を持った支援につなげている。

2. 職員の資質向上

全職員が適切な支援を実施するために、職場内トレーニングの年間研修計画を作成し実行。また、外部講師による研修や区主催の事例検討会などにも積極的に参加。後日、報告会等で職員全体に共有した。

《令和4年度外部研修一覧》

月	内容
5月18日	療育センターゆめなりあ研修
5月24日	さくら草学園見学
5月27日	個別支援計画作成セミナー(ZOOM)
6月8日	メンタルヘルスセルフケア基礎編(ZOOM)
6月9日	さくら草学園見学
6月14日	さくら草学園見学
6月30日	友達作りと社会的スキル(中野区)
7月4日	集団療育の基礎知識(ZOOM)

7月5日	自閉症スペクトラム症の再確認(ZOOM)
8月2日	管理者向けメンタルヘルスライン研修(ZOOM)
9月7日	東社協派遣研修「応用行動分析」への招待
9月27日	コロナ禍におけるセルフケア(ZOOM)
10月12日	自衛消防研修(野方消防署)
10月17日	福祉職場に求められるリーダーシップの在り方(ZOOM)
10月18日	BCP策定講座
10月24日	東社協派遣講師研修 知的障害者の支援の基礎的理解(ZOOM)
10月28日	相談支援(相談援助職)における記録の書き方(ZOOM)
11月22日	強度行動障害について学ぶ
12月13日	発達障害者・発達障害児への理解や支援について(ZOOM)
12月20日	ペアレントトレーニングの基礎(ZOOM)
1月26日	強度行動障害への理解と支援
11月~2月	発達協会ウェビナー研修(各職員が選択した研修を受講) 報告会を行う

《令和4年度社内研修一覧》

月	内容
4月25日	事例検討会、トイレ介助など
5月8日	個人情報保護法について
5月26日	放課後デイサービスガイドライン読み合わせ
6月10日	生活行為でみられる子どもの感覚調整について part I
6月20日	虐待防止研修 part I
6月24日	防災訓練(AED使い方・初期消火訓練)
7月1日	生活行為でみられる子どもの感覚調整について part II
11月1日	不登校・ひきこもりを学ぶ(法人研修)
1月25日	虐待防止研修 part2

3. 保護者支援

保護者会2回(6月、1月)実施。延べ48名の保護者にご参加いただき、事業内容や保護者同士の懇談などを実施している。また、令和4年度は多岐に渡る相談への対応のために、メンター相談員(コーディネーター)の増員を行い、相談体制の枠組みを増やしていく計画について、みずいろの指定管理事業の親支援事業として位置づけられたことにより、企画の見直しを始めていた。しかし、職員配置の不安定要素と、メンター登録者がライフワークの安定のため就労する等で、メンター相談員の人材が枯渇していた時期になっていたため実現出来なかった。また、親支援事業としての専門職による保護者プログラム、ペアレントトレーニングとピアサポートとしてのメンター活動の事業のすみ分けなど、職員・メンターの意識化に時が必要とされていた。

年末に行ったみずいろ利用児の保護者アンケート結果に多かった、子どもの卒業後や進路への不安に対する対応の一つとして、「みずいろOBのご家族より話を聴く会」を開催。27名参加。

なお、令和4年度3月のアンケート調査において毎日の生活に関する相談者として、家族26%友人・知人19%、放課後デイ・学童19% メンター13%となっており、身近な相談者に位置づけられてきていることが伺えた。

令和4年度 保護者支援報告書			延べ参加者合計 393名		
講座等種類	開催数	述べ参加者数(年間)	講座等種類	開催数	述べ参加者数(年間)
ミニ講座	2回	21名	茶話会	13回	77名
みずいろ保護者会	1回	21名	個別相談	15回	16名
保護者の輪	1回	12名	グループ相談会	8回	54名
ヒ°アカソサリソグ° 研修	3回	31名	企画講座	4回	67名
当事者の会	1回	21名	IROTORIYOUTH	4回	73名

4. 事業所交流

「中野区療育センター ゆめなりあ」、「児童発達支援事業 さくら草学園」の見学と事業所間支援員交換研修を実施。支援の参考になる事項が多く大変良い研修になった。今後も行っていく予定。

5. 地域交流

「コンビニ体験」と称し、地域のコンビニやスーパーへ買い物に行き、好きなおやつやお昼などを購入。物を選ぶ事や、お金の支払、店員との交流などの体験を月1回程度行う。外食体験としてファストフード店やファミリーレストランでランチを食べる体験も行った。

ボランティアによるバルーンレクリエーション活動を実施6月22日より毎月2回実施(8月にコロナ感染拡大の為休止)。

「親子で移動水族館鑑賞」10月に葛西水族館のご協力により移動水族館を実施。保護者やたんぼぼの利用者や職員も一緒にカラフルな熱帯魚を観察。ヒトデや貝などを目近に見られる磯体験を行う。子ども31名大人29名の計60名の方が鑑賞した。

また、みずいろ卒業生の親御さんからお話を聴く会を開催した時に、みずいろOBの方も招いて子どもたちと交流する機会を設けた。

6. 権利擁護・虐待防止

児童・障害者虐待防止法は遵守するとともに、通所する障害児の日常生活見守りの中で、異変を早期発見する視点を持ち、関係機関への通報義務を履行する。

法人内で虐待防止委員会を発足。虐待防止マニュアルの作成や権利擁護・虐待防止に関する研修を計画的に行った。(継続)

7. リモート環境整備を利用した支援など

オンラインでの映画や音楽。YouTube でダンスプログラムなどの提供。サブスクリプションの利用でプ

ログラムに幅ができた。また、タブレットの障害児用のアプリを使い、意思の表現など支援補助に使用。支援の補助として活用している。

8. 環境整備

業務ソフト、連絡ソフト、勤怠ソフトなど導入。また報告書等もできるだけパソコン上での作業を推奨し、紙の削減に努めている。前年と比べて約 10%の削減ができた。

エネルギーも高騰の中でできる限りの節約を行い約 10%の削減ができた。

9. 関係機関連携

(1) 相談支援事業所他

相談支援事業所およびまっしろキャンバスで作成した障害児支援利用計画に基づいて、サービス提供の連携を行う。定期的モニタリング連絡と緊急課題を連絡しあい、情報共有と適切な支援を実施。

随時、ケースカンファレンス開催の提案により、保護者および関係機関との連携を構築し、社会資源の有効活用に努めた。

(2) 在籍校

下校の迎えの際に、担当教諭と体調等引継ぎ事項を確認し、安全安心な支援を提供。

各学校の行事等により、利用時間等を個別に配慮することも多くなるため、迎えのトラブルがないように、家庭からの情報提供の把握に注力した。

(3) 地域活動団体との連携やボランティアの参加

コロナ禍の為、学校関係や地域活動団体との積極的な交流はできなかった。

(4) 嘱託医の活用

・中野区医師会推薦による嘱託医が月に 2 回来所し、医学的見地から衛生面や感染症対応など」の助言や、時期に合わせた内容の勉強会を 6 回行った。

《嘱託医勉強会一覧》

月	内容
5月17日	鼻血の対応について
6月14日	熱中症について
7月12日	夏に流行る感染症
10月18日	インフルエンザ関連、嘔吐処理など
11月15日	吐き風邪(秋風邪)の対応
2月28日	衛生環境推進アドバイス+質疑応答

10. 苦情相談

① 要望対応

保護者等の意見・要望等は、通所時の連絡ノート・保護者面談・保護者会および玄関の下駄箱上設置の意見箱で募り対応した。特に要望はなし。

② 苦情等対応

事業所内に苦情担当者を配置し、責任者として法人理事長が対応。中野区障害福祉課、中野区社会福祉協議会権利擁護事業および東京都社会福祉協議会権利擁護事業の連絡先を利用契約書重要事項説明書に記載して、契約時に口頭説明を実施した。特に苦情の発生はない。

③ サービス評価

サービス評価については、1年に1回利用者(保護者)アンケート実施し、集計結果をホームページにて公表。

12月に福祉サービス自己点検票に基づき自己点検を実施。

令和4年度の職員と保護者アンケートを12月に行い結果を令和5年3月にホームページ上で公表。

11. 職員配置

2023年3月1日現在

職種	常勤人数	非常勤人数	小計
管理者	1		1
児童発達支援管理責任者	1		1
児童指導員・保育士	5	6	11
指導員	2	2	4
嘱託医		1	1
合計	9	9	18

支援員は、常勤、非常勤合わせて18名在籍する。1日の支援員の配置は、加算配置となる児童指導員7名以上で、支援を行った。

12. 防災・非常災害時の対応について

下表の年間計画に基づき、防災訓練及び不審者対応訓練を実施し、非常時に備えた。また管轄の消防署へも報告を行った。

4月	図上訓練	8月	避難訓練 (緑野小校庭避難)	12月	不審者対応訓練
5月	避難訓練(火災)	9月	不審者対応訓練	1月	避難訓練(火災)
6月	自衛消防訓練	10月	避難訓練(外出中)	2月	自衛消防訓練
7月	避難訓練(地震)	11月	引き渡し訓練	3月	避難訓練(地震)

13. 運営管理

(1) 事業実績

① 利用実績(平日・学校休業日)

営業日数	利用延べ人数	平均利用率	平均利用人数	送迎利用延べ人数	平均送迎延べ人数/1日
293日	6,343人	77%	22人	11,855人 (往復)	40人

② 平均利用率

区分	①平日放課後(200日)	②学校休業日(93日)
令和4年度の実績	81%	69%

③ 月別利用率

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実績利用率	82%	79%	79%	76%	71%	63%	81%	79%	82%	83%	71%	82%

④ スポット利用回数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	22	7	15	25	66	8	14	14	17	25	16	29

⑤ 事業所内相談支援回数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	8	9	11	0	0	8	10	13	13	3	5	9

⑥ 送迎利用率

送迎利用率	93%
-------	-----

⑦ 一時保護事業における利用実績

登録者数	利用人数	利用総時間	平均利用時間
1人	1人	3時間	3時間/人

来年はホームページなどで告知を行い利用者の獲得に努める。

(2) 利用者分布

① 学校分布

令和5年3月1日現在

学年	中野特支	永福学園	明和中	美鳩小 あおぞら学級	令和小 こだま学級	江原小 わかば学級	西中野小 しらさぎ学級	久我山青光 (都立)	武蔵野東 (私学)	白桜小	計
小1	2人			1人	2人						39人
小2	3人			3人					1人		
小3	5人			2人		1人	2人	1人			
小4	1人			1人							
小5	3人			2人	1人	1人	1人		1人		
小6	2人			1人			2人				
中1			1人								12人
中2	3人	1人	2人								
中3	3人		2人								
高1											2人
高2	2人										
高3											
合計	24人	1人	5人	10人	3人	2人	5人	1人	1人	1人	53人

② 男女比

男性	39人	女性	14人
----	-----	----	-----

③ 個別サポート加算対象児

男性	10人	女性	2人
----	-----	----	----